

水防マット工

「水防工法の基礎知識」(社)全国防災協会より

必要な使用資材・工具・人数		1組1枚当たり
● マット→1枚 (5×3m)	● 枕土のう→12袋	
● 重し土のう (重) →3袋 (20×30cm)	● 杭→3本 (φ30mm, 長さ1.5m)	
● トラロープ (長さ) →3本 (φ10mm, 長さ3m)	● トラロープ (長さ) →1本 (φ10mm, 長さ10m)	
● 土で重し充填砂利→0.7m ³ (20kg)		
工具		
● 出欠 (ハンマー) →1丁	● オノ→1丁	
● 小皿ハンマー→2丁	● 巻網 (長さ約10m) →2本 (φ15mm, 長さ10m)	
● 紐 (とじ) →1本 (長さ約10m, 幅約2cm)	● 足場パイプまたは竹→2本 (長さ約3m)	
(必要人数) 10人		

※写真は参考写真です



①水防マット

- 縦5m×横3mの既製水防マットを使用する。



②重し土のうの取り付け

- マット下端に重し土のうと一緒に「力竹」を添え、結束する。
- 重し土のうは専用の土のう袋と、シートに取り付けられている固定ひもにより結束する。



③上部力竹と吊りロープの取り付け

- マット上端のパイプ通しに力竹を通す。
- 吊りロープはハトメ穴にロープを通し、力竹と一緒に「ふな結び」で結束する。



④マットの巻きとおろしロープの取り付け

- 重し土のうと添え力竹を芯に、すのこ状に巻く。
- おろしロープは、マット中央のハトメ穴を利用し、「ふな結び」で結束し、巻いたマットの下をはわせて上方に持つていく。



⑤吊りロープの固定と枕土のうの設置

- 居住地側堤防斜面に留杭3本を千鳥に打ち込む。
- 上端力竹に取りつけた吊りロープ3本を留杭に「ふな結び」で結束する。(「かみくし」でもよい)

- 堤防保護のため斜面上端に枕土のうを置く。土のうのしはり口は下流に向ける。

⑥マットおろし

- マットをおろす人は「もやい結び」により命綱を取り付ける。「すのこ巻き」にしたマットを、片足で強く蹴りマットを落とす。
- おろしロープはおろす人の体に向かって下流側の肩にかけ、反対側の脇腹を通して、ロープを左右の手で持ち、調整しながら少しずつゆるめ落とす。



Point!
ロープが体に絡まないように、流れの上流側の腰から肩にかけ、背中斜めに通して持つ。



⑦縦重し袋への土砂充填

- 土砂投入口のアンカーピンを左右斜方向の堤防上端に固定する。
- 縦重し袋への充填は上流側より順次行う。
- 砂利等の投入を補うため、長さ5m、幅16cmぐらいの一部半円形になった塩ビ製の桶を投入口からさし込み桶を上下にゆすりながら砂利を投入し、充填する。

注意事項

- ★ マットをおろす人は安全対策として「もやい結び」による命綱を必ず身につける。
- ★ 縦重し袋への土砂充填は上流側から先に作業する。

